

## 5 セクシュアルハラスメントに関する労働相談

### 【セクシュアルハラスメント関連の職場トラブルの特徴】

セクシュアルハラスメントの相談には、上司としての優越的な地位を利用して部下に性的関係を迫ったり身体的接触行為に及ぶ、いわゆる対価型の案件がある。

会合での性的な発言・冗談及び職場での噂話等も、加害者が気付かないうちに、想像以上に、相手方や話題の対象とされた人に深いダメージを与えていることがある。

こうした結果、「眠れない」「出社しようとするが、身体が言うことをきかない」「うつ病になった」という心身不調の症状を訴える相談者も多い。また、会社側もあっせん段階に至って、初めて事実の深刻さを知り、対応に苦慮する場合が見受けられる。

労働相談情報センターでは、必要に応じ適宜「心の健康相談」も併せて実施している。

### 〈平成27年度のセクシュアルハラスメントに関する労働相談の傾向〉

- (1) セクシュアルハラスメントに関する労働相談は1,198件で、26年度より36件増加した（第20表）。
- (2) 男女別では、女性827件（69.0%）、男性371件（31.0%）となっている。
- (3) 労使別では、労働者856件（71.5%）、使用者234件（19.5%）、その他108件（9.0%）となっている。
- (4) 産業別では、「サービス業（他に分類されないもの）」「卸売業・小売業」での相談割合が高くなっている（第22表）。
- (5) セクシュアルハラスメントの相談内容をさらに細分類すると、「環境型」の訴えが最も多く（26年度256件→27年度511件）、次いで「その他」の訴え（26年度631件→27年度496件）、「対価型」の訴え（26年度213件→27年度216件）となっている（第20表）。

※ セクシュアルハラスメントの相談件数は、発生の多い少ないという理由だけでなく、問題が顕在化しやすいかどうかによって左右される側面がある。女性の側に、セクシュアルハラスメント行為に対する意識が高く、かつ、申し立てしやすい環境があれば、件数は上昇する。逆に、泣き寝入りせざるを得ない状況が強ければ、労働問題として顕在化しない。また、セクシュアルハラスメントの相談は長期化する場合が多く、相談者のわずかな増加でも、相談件数に与える影響が大きい。このため、各年度の数値の比較には注意を要する。

第20表 年度別・セクシュアルハラスメント労働相談件数とその内容別件数

年 度		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
労働相談総計		52,155件 (△0.4)	52,684件 (1.0)	53,104件 (0.8)	51,960件 (△2.2)
セクシュアルハラスメント 労働相談件数		1,707件 (△29.4) [3.3]	1,397件 (△18.2) [2.7]	1,162件 (△16.8) [2.2]	1,198件 (3.1) [2.3]
相 談 内 容 (重複あり)	対価型、地位利用型セクシュアルハラスメントの相談	461件	331件	213件	216件
	環境型セクシュアルハラスメントの相談	720件	394件	256件	511件
	セクシュアルハラスメントに関する人事労務管理上の相談	287件	151件	83件	152件
	その他・不明	404件	575件	631件	496件

( ) は対前年度比 (%) [ ] は構成比 (%)

第21表 規模別・セクシュアルハラスメント労働相談件数

上段：全体の相談件数

下段：セクシュアルハラスメント労働相談件数

	計	30人未満	30～99人	100～299人	300人以上	その他・不明
労働相談 総 計	51,960件 [100.0]	12,226件 [23.5]	4,861件 [9.4]	3,795件 [7.3]	9,044件 [17.4]	22,034件 [42.4]
セクシュアル ハラスメント 相談件数	1,198件 [100.0]	490件 [40.9]	101件 [8.4]	83件 [6.9]	286件 [23.9]	238件 [19.9]

[ ] は構成比 (%)

第22表 産業別・セクシュアルハラスメント労働相談件数

上段：全体の相談件数

下段：セクシュアルハラスメント労働相談件数

合 計	建設業	製造業	情報 通信業	運輸業、 郵便業	卸売業、 小売業	金融業、 保険業	不動産業、 物品賃貸業
51,960件 [100.0]	2,107件 [4.1]	4,365件 [8.4]	3,944件 [7.6]	1,886件 [3.6]	5,051件 [9.7]	1,368件 [2.6]	1,016件 [2.0]
セクシュアルハラスメント 相談件数 1,198件 [100.0]	102件 [8.5]	167件 [13.9]	40件 [3.3]	7件 [0.6]	211件 [17.6]	20件 [1.7]	81件 [6.8]
	宿泊業、飲食サービス業	教育、 学習支援	医療、 福祉	サービス業（他に分類されないもの）		その他	不明
	2,221件 [4.3]	1,652件 [3.2]	5,972件 [11.5]	11,564件 [22.3]		1,980件 [3.8]	8,834件 [17.0]
	18件 [1.5]	66件 [5.5]	94件 [7.8]	256件 [21.4]		33件 [2.8]	103件 [8.6]

[ ] は構成比 (%)

## <セクシュアルハラスメント関連のあっせん事例>

### 【事例1】 社長からのセクシュアルハラスメント

相談者は、製造業で営業に従事していた正社員。打ち合わせの際、相談者は、社長から抱きつかれたりキスをされ、その後も同様の行為を数回受けた。相談者は、社長にメールで不快な思いをしていることを伝えたが謝罪はなかった。退職を申し出ると慰留され、相談者は、気持ちの整理もできず、今後の対処方法について、助言を求めて来所に至った。

センターは、会社から状況確認を行った。当初、会社からは謝罪する旨の表明がなされたが、その後は相談者が主張する行為については合意があり、セクシュアルハラスメントではないとした。

相談者は、会社の姿勢に納得せず、争う姿勢をみせた。センターが粘り強く調整を行った結果、会社は、金銭補償をすることなどを表明したため、相談者はこれを受け入れて勧奨退職した。